

# 研究協力をお願い

昭和大学藤が丘病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

開大式高位脛骨骨切り術後の運動復帰に関連する因子の検討

## 1. 研究の対象および研究対象期間

対象：2012年4月1日から2019年9月30日に昭和大学藤が丘病院で内側型変形性膝関節症に対し、2面骨切りの高位脛骨骨切り術を施行した患者さん。対象となる方は60名70膝（男性25膝，女性45膝）で平均年齢は55.2(32～75)歳の方。

## 2. 研究目的・方法

加齢に伴う内側半月板損傷や膝関節の大腿骨と脛骨間の内側関節軟骨の内側関節軟骨の変形性と欠損が生じ、疼痛の大きな要因になると同時に、活動性が高く、運動活動を望む患者さんへの一つの有効な手術術式として、内側開大式高位脛骨骨切り術があります。これは、内側にある荷重位置を骨切り矯正により外側寄りに移動させ、疼痛を改善する手術です。対象は活動性が高い若年者で、人工関節置換術を行うには、将来的な弛みや活動の制限が生じるため、適応外の患者です。手術の際、患者さん個々の術前の変性度合いや活動性により、矯正角度を変えることの有効性の報告を散見します。本研究の目的は、当院での同術後において、運動復帰に影響を与えた術前、術中の因子を調べることで、患者さん個々にあった高位脛骨骨切り術の矯正角度の設定への寄与に貢献できると考えます。

## 3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2026年3月31日まで

## 4. 研究に用いる試料・情報の種類

対象症例の術前と術後3か月、6か月、12か月時の単純X線画像を使用します。電子カルテ内の対象症例の性別、年齢、術前後臨床症状、所見、治療歴を氏名やカルテIDなど個人を特定できる情報を削除し、符号化した上で使用します。

## 5. 外部への試料・情報の提供

該当致しません。

## 6．研究組織

研究責任者      研究機関名 昭和大学藤が丘病院 整形外科      氏名 瀬上和之

## 7．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学藤が丘病院

氏名：瀬上和之

住所：横浜市青葉区藤が丘 1 - 30

電話番号：

045-971-8851